

Scale 1/43

#11013

available

02/2021

limited edition 333 Stck.



## モットーに反して

マイバッハ社のたった20年の歴史には、“最上級”が溢れています。たとえば、1921年のベルリン国際モーターショーでの質問に対するカール・マイバッハの回答に表れています、「一番安い車を展示するのかわ？」という問いに彼は答えます、「いいえ、最も高価なモデルです！」

彼は自分の自動車には最上のものだけで十分であるというモットーに固執した。技術的に複雑で、先見の明があり、進歩的なマイバッハは、自動車シーンの基準を打ち立てた。マイバッハは、4輪すべてにブレーキを装備し、驚くべき排気量(最終的には7.9リッター)を持った最初のドイツ製車を開発製造した。その結果、フリードリヒスハーフェンを拠点とする会社は、乗用車用の最初の標準V12気筒エンジンも開発した。最大出力200hpを出したことで、競争は激化した。しかし1931年、方針を6気筒エンジンの開発に転換した。この

モデルシリーズは「W6」と呼ばれ、1934年にモデルシリーズ「DSH」と名前を変えた。それは「Double-Six-Half」の略で、半分にされた12気筒エンジンに関連している。確かに、最初は少し耳障りに聞こえるが、12気筒エンジンの指定は「DS」または「Double-Six」と書かれているので、かなり妥当と言ってもよかった。6気筒エンジンの排気量は正確に5,184cc、130 hpで、取り付けられたボディワークに応じて、車は約135 km/hに加速された。「より大きな」モデルと同様に、顧客はもちろん、DSH用に希望するボディワークセットアップを注文することもできた。2人乗りと4人乗りのコンバーチブルボディワークだけでなく、プルマンバージョンとフロントシートの上に取り外し可能なルーフを備えたバージョンも、既知のボディメーカーによって製造されたことが記録に残っている。

非常に特別なボディワークを備えた合計

34台の車両の1部(他の情報では50台)は、ジンスハイム技術博物館での展示物となった。かつて誇らしげで印象的だった高級車は、第二次世界大戦後の困難な時期に移動式のこぎり車に改造された。1986年までは、ゲオルク・ユークヴァルト氏が老後になってもその車を所有していた。彼は最後の遺言で「マイバッハのこぎり」を博物館に寄贈したが、復元されていない状態で展示するように命じた。

**AutoCult GmbH**  
Äußere Further Straße 3  
90530 Wendelstein  
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280  
ファックス +49 / 9129 / 296 4281  
info@autocult.de

www.autocult-models.de